



浦河町 ゼロカーボンシティ宣言

脱炭素社会の実現に向けて二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」。
これまでの取り組みと、脱炭素化に向けた今後の事業を紹介します。

近年、地球温暖化が原因と見られる気候変動の影響により、国内外で自然災害が頻発しています。

地球温暖化に及ぼす影響が最も大きな温室効果ガスは、二酸化炭素です。二酸化炭素は、石炭や石油といった化石燃料を燃やしてエネルギーを取り出す際に、大気中に大量に放出されます。

日本では、令和2年に「2050年までに、温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにし、脱炭素社会を実現する」【2050年カーボンニュートラル】を目指すことが宣言され、北海道においても同様の宣言がされています。

日本の二酸化炭素排出量のおおよそ6割を、生活の中で消費する製品やサービスの製造、流通、使用、廃棄といった各段階で生ずる温室効果ガスが占めています。

脱炭素社会の実現に向けて、生活スタイルや購入する製品・サービスを見直すなど、二酸化炭素の排出抑制について一人ひとりが取り組んでいくことが大切です。

浦河町が目指す未来

浦河町は、今年度「SDGs・地方創生推進室」を設置してSDGsの目標達成に向けて取り組むことといたしました。また、これまでも独自の脱炭素化への取り組みを進めてきており、「ゼロカーボン推進室」を設置してゼロカーボンに向けた取り組みを更に充実させます。カーボンニュートラルに向けた持続可能な取り組みを推進するため、浦河町でも「ゼロカーボンシティ」を宣言し、脱炭素社会を目指します。

町民の皆さんと一緒に

脱炭素社会の実現に向けて、浦河町の特性を踏まえた具体的な取り組みを進めていきます。

一人ひとりの取り組みが地球温暖化対策につながります。そのためには町民の皆さんの協力が必要です。これからは、広報紙などで取り組みを紹介していきますので、皆さんと一緒にカーボンニュートラル・SDGsの達成に向けて進みましょう。

身近なことからアクションを

環境省では、衣、食、住、移動、買い物など、普段のどのような行動が脱炭素につながるのかわかる「ゼロカーボンアクション30」としてまとめています。例えば、節水や節電、モノを長く大事



ひとりひとりができること
**ゼロカーボン
アクション30**



環境省 HP は
コチラから



これまでの取り組み

これまで、役場庁舎・総合文化会館等の一部公共施設のLED照明への更新、街路灯・防犯灯をLED化、木質バイオマスボイラーの導入、公用車両の一部に電気自動車の導入、浦河町オフセットクレジットの販売などに取り組んできました。

これからの取り組み

今後は、浦河町温暖化対策実行計画を策定し、公共施設のLED照明の導入、バイオマスプラステックごみ袋導入の検討、新たなバイオマス燃料の研究、環境普及イベントの開催などを予定しています。



木質バイオマス
エネルギーセンター

これまでの化石燃料から木質チップに転換することで、二酸化炭素の発生量を大幅に抑制することが可能に。

ゼロカーボンシティとは？

環境省では、「2050年に二酸化炭素を実質ゼロを目指す旨を首長自らがまたは地方自治体として公表した地方自治体」をゼロカーボンシティと定義しています。浦河町は令和4年9月に宣言をしました。

カーボンオフセットとクレジットとは？

カーボンオフセット

企業や個人でどうしても削減できない温室効果ガスを、他の場所で削減・吸収された分を埋め合わせる（＝オフセットする）という考え方。他の場所での削減・吸収活動とは、森林管理や再生可能エネルギーの利用などを指します。

オフセット・クレジット

森林管理や省エネで削減・吸収された温室効果ガスの効果を、数値化したもの。クレジットを売り買いすることで、企業等が排出量をオフセットできます。また、削減・吸収事業に資金が流れ、取り組みの活性化が期待できます。



今後も脱炭素化に向けた積極的な施策を検討し、カーボンニュートラルを達成していくため、この度、ゼロカーボンシティを宣言しました。町民一丸となった脱炭素化に向けた取り組みをさらに推進することで、持続可能な未来を次世代に繋いでいきたいと考えています。

